



企画・制作 広告特集
朝日新聞社広告局



OTC医薬品とは?

OTC医薬品とは、処方せんなしで薬局・ドラッグストアなどで購入できる一般用医薬品のことです。「OTC」は英語の「オーバーザ・カウンター」の頭文字をとったもので、薬剤師がカウンター越しに薬を手渡す販売の仕方に由来しています。



医療ジャーナリスト・写真家

伊藤 隼也 さん

いとうしゅんや / 1994年、父の死をきっかけに医療問題に深い関心を持ち、医療ジャーナリズムの世界に。2009年、第15回「編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞」大賞を受賞。「最強ドクター治せる108人」(扶桑社)など著書多数。

選択肢の増加は生活者のメリット

〳者からの要望があれば、全ての医薬品について説明をすることが義務化されました。伊藤 日本は医療アクセスが非常によい国で、「不調があればすぐ病院に」という人が多いですが、ケースによってはOTC医薬品などを使って自分で健康を管理することも大切です。「セルフメディケーション」をめぐる現在の状況は、たとえば欧米などと比較していかがですか。塩野 一般に、欧米の人たちはセルフメディケーションの意識が高いと思います。それは単純にいえば、日本に比べて医療にお金がかかることが原因です。早めに自分で対処し健康を守ることが、自分自身のメリットであるという考え方が根付いているようです。伊藤 OTC医薬品の利用しやすさも含め、日本は医療サービスが充実した国だと思いま

本では「効果」より「安全性」という回答が圧倒的に多いんです。伊藤 近ごろ注目されている「スイッチOTC薬」というのは、もともと医療用医薬品であったもののうち、OTC医薬品としても十分安全に使用できると認められたものですね。塩野 そうです。これまでは医師の指導を受けて使っていたものから一定の注意は必要ですが、薬剤師がきちんと薬の説明・相談に応じることが義務づけられた新しい薬事法の下では、スイッチOTC薬を上手に使える環境が整ったと思います。伊藤 日本では特に医療用医薬品の分野で国の承認に時間がかかり、諸外国より使用開始が遅れる「ドラッグラグ」の問題が指摘されています。もちろん安全性の確

政や、限られたマンパワーのなかで努力を続ける医療現場の問題を考えると、スイッチOTC薬が今後担うことのできる役割は大きいと思います。伊藤 日本では医療現場の過度な負担が問題になっていますが、だからといって一般の人に「病院に行くな」というのではなく、「このくらいなら自分で対処できる」と一人ひとりが判断できる正しい知識を身につけることが必要です。日本OTC医薬品協会にはぜひそのための情報提供をお願いしたいですね。塩野 各医薬品メーカーでは、製品のパッケージや添付文書(説明書き)だけでなく、インターネットなどを通じて積極的に情報発信を行っています。薬局・薬店・ドラッグストアの店頭ではまわりに人がいるので相談しにくいという人のために、あらかじめ相談内容を記入できるシートをホームページ上に用意しているところもあります。日本OTC医薬品協会としても、親子で薬について学べる教材を作成し、学校などに配布しています。伊藤 たとえば子どもに注射をするとき

家族の健康を守るカギは かかりつけ薬局・薬剤師

OTC医薬品の進歩で可能性が広がる これからのセルフメディケーション

生活者一人ひとりが自分の健康に責任を持つ「セルフメディケーション」の大切さと、その中心的役割を担うOTC医薬品のこれからについて、日本OTC医薬品協会の塩野紀子広報委員長と医療ジャーナリストの伊藤隼也さんが語り合いました。

※この対談は2011年2月25日に収録しました



薬の専門家にアドバイスしてもらいましょう

セルフメディケーションの 理解と活用

伊藤 一昨年の6月に改正薬事法が施行され、OTC医薬品の分類や販売法が変わりました。具体的にどう変化したのか、改めてお聞きさせていただきますか。

塩野 使用法や副作用、相互作用(飲み合わせ)などについて注意が必要な順に、OTC医薬品を第1類・第2類・第3類の三つに分類しました。このうち第1類はカウンターのなかなど消費者の手が届かないところに置き、薬剤師が説明をしたうえで販売することが義務づけられています。第2類第3類も薬剤師または登録販売者という専門家のみが扱い、消費

伊藤 それは興味深いですね。「スイッチOTC薬」の進展は医療機関の負担軽減に

塩野 もうひとつ面白いデータがあります。医薬品に求めるものを各国で比較すると、諸外国では「効果」が第一に挙げられますが、日

伊藤 それは興味深いですね。国民の医療に対する理解と活用や「感度」はまだ十分ではないと感じています。塩野 ある調査によると、日本人の医薬品の購入額は欧米と同じくらいという結果が出ています。医療機関も積極的に利用する一方で、自分できちんと健康管理をしようという意識も決して低くない。そんな傾向が日本人にはあるようです。



日本OTC医薬品協会 広報委員長

塩野 紀子 さん

しおののりこ / エスエス製薬株式会社代表取締役社長。米リンチバーグ大学社会学部卒業。ブリティッシュ・エアウェイズ、フェデラルエクスプレス、ウォルト・ディズニー・ジャパンなどを経て、昨年から現職。

present

アンケート&プレゼント

以下のアンケートにお答えください。抽選で100名様に「ミニ水筒」(日本OTC医薬品協会提供)を差し上げます。

Q1 薬局・薬店・ドラッグストアで買える一般用医薬品のことを「OTC医薬品」といいます。あなたは、この「OTC医薬品」という言葉をどこで知りましたか?
①詳しく内容を理解している ②ある程度内容を知っている ③言葉だけは聞いたことがある ④聞いたことがない(初めて知った)

Q2 軽い病気やけがをしたとき、「OTC医薬品」を使って手当てするなど、自分自身で責任をもって健康を管理することを、「セルフメディケーション」といいます。あなたは普段、「セルフメディケーション」を実践していますか?
①実践している ②まあ実践している ③どちらともいえない ④あまり実践していない ⑤実践していない

Q3 近年、軽い病気やけがもしたことがない。あなたは「OTC医薬品」の添付文書(薬の説明書き)を読んでいますか?
①いつも読む ②ときどき読む ③あまり読まない

3月11日に発生した東日本大震災により、被災された皆様及びご関係者の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

日本OTC医薬品協会

「我慢しなさい」というのではなく、「痛いけどこんな効果があるから頑張つてね」と説明すると、病気と闘う力が上がることは複数の研究で確認されています。同様に「薬は使うときに注意が必要だけど、こんなふうに関わり役立つんだよ」と教えると、子どもたちが自分を守る力を身につけることができます。そのため教育は今の大人たち、親たちの役割だと思います。

塩野 そうですね。親子や兄弟は体質が近いので、健康維持のうえで注意すべき点も似通っていることが多いものです。まず家庭のなかで健康について一緒に考えることが、セルフメディケーションの第一歩だと思います。

伊藤 同時に、薬の専門家としての薬剤師の役割をもっと広め、消費者と薬剤師のいいコミュニケーションを育てていくことも大切ですね。スイッチOTC薬などの選択肢が増えることは消費者にとってはメリットですが、正しい選択のためには専門家のアドバイスが不可欠です。

塩野 今回の改正薬事法施行がそのスタート地点だと思います。新しい制度の下では、

消費者が薬剤師に相談をすることがこれまで以上に身近になりました。ご自分と家族の健康を守るために、日頃から何でも相談できる「かかりつけ薬局」をぜひ持つてほしいと思います。

法や陳列が変わりました。あなたはこのことをご存じでしたか？

- ①知っていた ②なんとなく聞いたことはある
③知らなかった(初めて知った)

Q5 治療のために薬局・薬店・ドラッグストアで購入した「OTC医薬品」の購入費も、「医療費控除」の対象になります。あなたは、このことをご存じでしたか？

- ①知っていた ②なんとなく知っていた ③知らなかった(初めて知った)

Q6 本広告特集、「OTC医薬品」「セルフメディケーション」「スイッチOTC薬」について、感想・質問・ご意見があればお書きください(400字以内)。

応募方法

アンケートの回答(例:Q1①)と郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、性別、電話番号を明記のうえ、はがき、FAX、インターネット、携帯電話のいずれかで下記まで先までお送りください。

[はがき] 〒104-8665 東京・晴海支店私書箱303号

朝日新聞東京本社広告局「OTC医薬品広告特集アンケート」係

[FAX] 03-5972-6634

(「OTC医薬品広告特集アンケート」係と明記してください)

[インターネット] <http://www.asahi.com/e-post/>

[締め切り] 5月27日(金)必着

※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報は賞品の発送のためだけに使用します。

